

第5章 計 数 表

計 数 表 の 意 味

1 取引基本表 統合小分類（1-1 P58～） 統合中分類（2-1 P90～） 統合大分類（3-1 P140～）
(以下、小分類、中分類、大分類という。)

財・サービスの取引過程のすべてを行と列からなる一覧表に取りまとめたもので、各種係数表の元になる。この表をタテ（列）方向にみると各産業の投入（費用）構成が、また、ヨコ（行）方向にみると産出（販売先）構成が分かる。

2 投入係数表 中分類（2-2 P100～） 大分類（3-2 P144～）

投入係数とは、各産業がそれぞれの生産物を生産するために使用した原材料、燃料等の投入額をその産業の県内生産額で除したものであり、1単位の生産をするために必要な原材料等の産業別の投入割合を表わしている。

この投入係数を産業別に求めて一覧表にしたものが、投入係数表である。

3 逆行列係数表 中分類（2-3 P110～、2-4 P120～） 大分類（3-3 P148～、3-4 P152～）

各産業に対して1単位の最終需要が発生した場合、どの産業の生産が究極的にどれだけ誘発されるかを示した表のことである。①は移輸入（県外で生産される）分を控除したもので、②は移輸入分を控除しないものである。

$$\textcircled{1} [I - (I - \hat{M}) A]^{-1} \text{ 型} \quad \textcircled{2} (I - A)^{-1} \text{ 型}$$

[関連事項]

(1) 影響力係数

ある列部門に対する最終需要1単位によって引き起こされる産業全体に対する生産波及の大きさを表わすものであり、逆行列係数表の最終行に掲載している。

(逆行列係数の各列和) / (逆行列係数の列和の平均値)

(2) 感応度係数

各列部門にそれぞれ1単位の最終需要があった時に、どの行部門が相対的に強い影響力を受けるかを表わすものであり、逆行列係数表の最終列に掲載している。

(逆行列係数の各行和) / (逆行列係数の行和の平均値)

4 分析表

(1) 最終需要項目別生産誘発額表 中分類（2-5 P130～） 大分類（3-5 P156～）

最終需要の各項目によって誘発される産業別の県内生産額を表す。

計算は、 $[I - (I - \hat{M}) A]^{-1} \cdot [(I - \hat{M}) Y + E]$ によった。

(2) 最終需要項目別生産誘発係数表 中分類（2-6 P131～） 大分類（3-6 P157～）

どの最終需要項目が、どの産業部門の生産をどれだけ誘発しているかを示す。

(ある最終需要項目による生産誘発額) / (対応する最終需要項目の最終需要額合計)

(3) 最終需要項目別生産誘発依存度表 中分類(2-7 P132~) 大分類(3-7 P158~)
 各産業部門における最終需要項目別生産誘発額の構成比であり、各産業部門の生産が、どの最終需要項目によって、どれだけ誘発されたのかの割合を示す。
 (ある最終需要項目による生産誘発額) / (最終需要項目全体によって誘発された県内生産額)

(4) 最終需要項目別粗付加価値誘発額表 中分類(2-8 P133~) 大分類(3-8 P159~)
 最終需要の各項目によって誘発される産業別の粗付加価値額を表す。
 計算は、 $V \cdot [I - (I - \hat{M}) A]^{-1} \cdot [(I - \hat{M}) Y + E]$ によった。

$$\underbrace{\hspace{1.5cm}}_{\text{(粗付加価値率)}} \cdot \underbrace{\hspace{3.5cm}}_{\text{(生産誘発額)}}$$

(5) 最終需要項目別粗付加価値誘発係数表 中分類(2-9 P134~) 大分類(3-9 P160~)
 どの最終需要項目が、どの産業部門の粗付加価値をどれだけ誘発しているかを示す。
 (ある最終需要項目による粗付加価値誘発額) / (対応する最終需要項目の最終需要額合計)

(6) 最終需要項目別粗付加価値誘発依存度表 中分類(2-10 P135~) 大分類(3-10 P161~)
 各産業部門における最終需要項目別粗付加価値誘発額の構成比であり、各産業部門の粗付加価値が、どの最終需要項目によって、どれだけ誘発されたのかの割合を示す。
 (ある最終需要項目による粗付加価値誘発額) / (最終需要項目全体によって誘発された粗付加価値額)

(7) 最終需要項目別移輸入誘発額表 中分類(2-11 P136~) 大分類(3-11 P162~)
 最終需要の各項目によって誘発される産業別の移輸入額を表す。
 計算は、 $\hat{M}A \cdot [I - (I - \hat{M}) A]^{-1} \cdot [(I - \hat{M}) Y + E] + \hat{M}Y$ によった。

$$\underbrace{\hspace{1.5cm}}_{\text{(移輸入品投入係数)}} \cdot \underbrace{\hspace{3.5cm}}_{\text{(生産誘発額)}} \cdot \underbrace{\hspace{1.5cm}}_{\text{(移輸出を除く最終需要の直接移輸入額)}}$$

(8) 最終需要項目別移輸入誘発係数表 中分類(2-12 P137~) 大分類(3-12 P163~)
 どの最終需要項目が、どの産業部門の移輸入をどれだけ誘発しているかを示す。
 (ある最終需要項目による移輸入誘発額) / (対応する最終需要項目の最終需要額合計)

(9) 最終需要項目別移輸入誘発依存度表 中分類(2-13 P138~) 大分類(3-13 P164~)
 各産業部門における最終需要項目別移輸入誘発額の構成比であり、各産業部門の移輸入が、どの最終需要項目によって、どれだけ誘発されたのかの割合を示す。
 (ある最終需要項目による移輸入誘発額) / (最終需要項目全体によって誘発された移輸入額合計)

(10) 移輸入係数 中分類（2-14 P139～） 大分類（3-14 P165～）

各行部門の移輸入額を県内需要額（移輸出を除く）で除したものである。

$$\left(m_i = \frac{M_i}{(AX)_i + Y_i} \right), \hat{M} = \begin{bmatrix} m_1 & 0 \\ m_2 & \\ \cdot & \\ \cdot & \\ 0 & \cdot \end{bmatrix}$$

(11) 移輸入品投入係数 同上

移輸入係数の対角行列に投入係数を乗じたもの（ $\hat{M}A$ ）である。

ただし、本表の係数は列和で示してある。

(12) 総合移輸入係数 同上

単位当たりの最終需要によって誘発される各産業の直接・間接の移輸入額を表す。

「移輸出を除く最終需要」1単位によって誘発される係数

$$[\hat{M}A [I - (I - \hat{M}) A]^{-1} \cdot (I - \hat{M}) + \hat{M}] \text{ と}$$

「移輸出」1単位によって誘発される係数

$$[\hat{M}A [I - (I - \hat{M}) A]^{-1}] \text{ に分けて算出し、それぞれの列和で示してある。}$$

(13) 総合粗付加価値係数 同上

単位当たりの最終需要によって誘発される各産業の直接・間接の粗付加価値額を表す。

$$\hat{V} [I - (I - \hat{M}) A]^{-1} \text{ で計算し、列和で示してある。}$$

注：ここで用いた記号の意味は次のとおりである。

I：単位行列

Y：県内最終需要ベクトル

M：移輸入ベクトル

E：移輸出ベクトル

\hat{M} ：移輸入係数を対角成分とする対角行列

\hat{V} ：粗付加価値率を対角成分とする対

A：投入係数行列

角行列

5 雇用表 中分類（4-1 P166～） 大分類（4-2 P168～）

雇用表は産業連関表の対象となった1年間の生産活動のために、各部門が投入した労働の量を従業上の地位別（個人業主、家族従業者、有給役員、常用雇用者及び臨時・日雇）に区分し、推計したものである。

したがって、雇用表の部門分類も産業連関表と同様に、生産活動範囲（アクティビティ・ベース）に基づいた分類となっている。

本書に掲載した計数表一覧

計数表名称	部門分類			
	統合小分類 190 部門	統合中分類 109 部門	統合大分類 37 部門	ひな型 13 部門
1 取引基本表（生産者価格評価表）	○	○	○	○P. 2, 3
2 投入係数表		○	○	
3 逆行列係数表 $[I - (I - \hat{M})A]^{-1}$ 型		○	○	
4 逆行列係数表 $(I - A)^{-1}$ 型		○	○	
5 最終需要項目別生産誘発額表		○	○	
6 最終需要項目別生産誘発係数表		○	○	
7 最終需要項目別生産誘発依存度表		○	○	
8 最終需要項目別粗付加価値誘発額表		○	○	
9 最終需要項目別粗付加価値誘発係数表		○	○	
10 最終需要項目別粗付加価値誘発依存度表		○	○	
11 最終需要項目別移輸入誘発額表		○	○	
12 最終需要項目別移輸入誘発係数表		○	○	
13 最終需要項目別移輸入誘発依存度表		○	○	
14 移輸入係数、総合粗付加価値係数等		○	○	
雇用表		○	○	